

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 044	提案機関名 農業技術センター横浜川崎地区事務所
要望問題名 被覆資材を利用したウドの軟化栽培について	
要望問題の内容 【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 【背景】横浜市瀬谷地区では、横穴・地下式軟化室を利用したウドの軟化栽培が40年以上行われてきたが、米軍基地が国に返還されるのに伴い、軟化室の利用ができなくなった。 【内容】地下式軟化室を新たに設置することが難しいため、今後はパイプハウス内に、遮光・保温資材のトンネルを設置した軟化栽培を行う予定。平成28年度はモデル的にパイプハウス内での軟化を実施したが、室で生産した場合と生産物の形質が異なり、葉柄がかなり伸び、先端に葉焼けや腐れが生じるなどの高温等の影響と思われる生育障害が問題となっている。 このため、安定した品質を確保し、生産を続けるためにトンネル内の環境維持及び栽培法の確立等について必要な検討を実施してもらいたい。 【対象地域】横浜市瀬谷区 根株養成のための作付面積 約1.3ha 生産者13名(現状)2016年10月現在	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部 野菜作物研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) かながわらしい地産地消を推進するための技術開発 2 消費者ニーズに応える高品質・安定生産技術の開発 () ウドの簡易軟化法の改良			
対応の内容等 28年度に軟化うど生産農家、JA横浜、横浜市、横浜川崎地区事務所が、被覆資材4層の簡易軟化施設を設置し、軟化処理を行うとともに温湿度について調査されたところです。先進地視察先からは、半地下方式を強く薦められたようですが、より安価で設置・撤去が容易なフィルム資材による簡易な軟化施設で試行されているため、日射や気温等外気象の影響を強く受ける同施設で、年間を通じて温湿度の変化が小さい室軟化処理と同等品質の製品の生産は困難と思われます。 しかし、28年度に明らかになった形状の乱れ、茎長付近の腐れ、主茎のクリーム色化等課題については、現地で調査を行い、また、防水・透湿性、光反射、保温等被覆資材の機能性については、所内で調査するなどして情報提供に努める等、よりよい品質の製品を生産する技術について提案を行います。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			